



音楽家

高橋 幸宏 さん

今回は、音楽家の高橋幸宏氏にお話を伺った。2007年初頭、YMOは、ビールのCMをきっかけに再結成され、同年7月7日には、地球温暖化防止活動を促進するためのチャリティーイベントである「Live Earth」に出演された。また、小児ガンなどの病気に苦しむ子供とその家族の支援を提唱する「Smile Together Project」主催のチャリティーコンサートに「Human Audio Sponge」として出演するなどの活動も行なっている。高橋氏のお話から、チャリティーへの思い、そして、常に新しい音を求める音楽に対する真摯さを感じることができた。

(聞き手・構成：太田美和、中島美砂子)

—今回、YMOが再結成されましたが、十数年ぶりにまた同じメンバーで仕事をするのは、いかがですか。

特に再結成という意識はなく、もともと、またみんなやろう、という気持ちが強かったわけではありません。たまたまCMのお話を頂き、それに限ってやろうという気持ちだったんです。それが、とても自然な流れでまた一緒にやることに至りました。メンバー一人一人は全然変わりませんね。ただ、年をとって丸くなったところはあるかもしれません。

—地球温暖化防止を訴える「Live Earth」に参加されていますが、地球温暖化、エコロジーといったものをどのように考えておられますか。

地球が次の世代には、このままでは残っていないだろう、ということを感じています。例えば、シロクマはもうしばらくしたら絶滅してしまう、と言われています。環境問題は、現在、まさにそこまできてしまっているのです。そして、環境をもとのように戻すのは、ものすごく時間がかかることで、20年、30年で簡単に戻るものではありません。そのための時間は

もうあまり残されていません。だからこそ、今、動かざるをえないと感じています。

—釣りがご趣味ということですが、釣りを行なうに際して、環境の変化を感じることはありますか。

10年くらいの中に、森林伐採や、見たこともないコケが増えたり、ダムができたり、以前と全く違う川になってしまったと感じることはたくさんあります。

また、海外でも釣りをしますが、自然保護に対する国の姿勢の違いを感じることもあります。アメリカには、まるでディズニーランドのような、ビーバーがいて、緑が生い茂る徹底した「作られた自然」がある一方で、平気で釣ったものを持って帰る庶民がいます。日本の曖昧な、よく言えば柔軟な姿勢に比べて、アメリカにはそういう両極端な面があると感じることがあります。

—ほかに、チャリティーとしては、「Smile Together Project」主催のコンサートに、YMOのメンバーで「Human Audio Sponge」として参加されています。こ

人を助けられると思うのは、
人間のエゴではないか——。
その疑問は今もないわけではありません。
しかし、確実に言えることは、
一人でも多くの人を救った方がいい、
ということです。



のように、積極的にチャリティー活動を行なうのは、どのような理由からですか。

子供の死因の第1位は不慮の事故、第2位は小児ガンと言われています。小児ガンの子供の親は、まだ若い方が多いため、必然的に、十分な経済力を持っていないことも多く、そのために子供の命を助けることができないという現実があります。「Smile Together Project」は、そのような、子供やその家族を支援する活動を行なっています。

もともと、私は、チャリティーというものが嫌いでした。というのは、音楽を商業的に使うことについて、違和感を持っていたからです。また、人が人を助けることができるのかという疑問も持っていました。人を助けられると思うのは、人間のエゴではないかという思いがあったからです。

今も、そのような気持ちがないわけではありません。しかし、今、確実に言えることは、一人でも多くの人を救った方がいい、ということです。

—— Live Earth では、「ライディーン」のリメイクである「RYDEEN 79/07」を演奏されていましたが、新しくなったのはどのような点ですか。

これまでと同じでは3人ともおもしろくないので、一番新しい音を作りたい、と考えて作りました。3人でメールのやりとりをしながら方向性を決め、データの

交換から始めました。その後、一緒にスタジオに入り作業を進めました。新しい「RYDEEN 79/07」は、アコースティックギターをメインに、生っぽくするという意識をしています。

——ライディーンのマロディは高橋さんの鼻歌から生まれたと聞いたのですが…。

教授（坂本龍一氏）はそう言っているみたいだけど、覚えていません。よく、ふと思いついた曲をメモしたり、録音したりする、という話を聞きますが、私の場合、そうやって思いついた曲は大体後で聞くとダメで、使い物になりません。やはり、曲を作るときは、意識的に「曲を作るぞ」という気持ちで作ります。

——高橋さんにとって、「音楽」とは、なんですか。

常に、新しいことができる場だと思っています。新しいことができなくなったら、音楽をやめるでしょう。

プロフィール たかはし・ゆきひろ

1952年東京生まれ。1978年細野晴臣、坂本龍一とともにイエロー・マジック・オーケストラ(Y.M.O)を結成。日本のみならず、世界の音楽シーンに圧倒的な影響を残したが、1983年12月に活動を休止。ソロ活動では2006年発表の『BLUE MOON BLUE』までに通算21枚のオリジナル・アルバムを発表する。2007年7月には地球温暖化防止を訴える世界規模のコンサート「Live Earth」で14年ぶりにYMOを再々結成。作詞作曲家、音楽プロデューサーとして多くのミュージシャンの作品を手がける一方、ファッションデザイナーとしても活躍。趣味の釣りは30年以上のキャリアを持つ。